

世界の動きがわかる!



Sankt Peterburg G8サミット

G8サミット 初めて ロシアで開催

7月15〜17日、主要国首脳会議(G8サミット)がロシアのサンクトペテルブルクで開催された。日本の安全を脅かす北朝鮮のミサイル発射、核、拉致については「議長総括」と不拡散に関する声明で非難。また、世界の安全保障やエネルギーの安定供給などグローバルガバナンスにかかわる問題について、過去最多の31以上の指摘項目が採択された。

宇田 信一郎 一文
(G8サミットリサーチグループメンバー/
ロンドン大学LSE国際社会経済フォーラム会長)
text by Uda Shinichiro
論文「The Role of G8 Summit & Globalization」が
2002年に英国で出版された。

日本は目標を達成

1975年、石油危機に対処するための経済サミットとして始まったG8サミットは、79年の旧ソ連のアフガニスタン侵入後、政治サミットへ変遷して、冷戦後はロシアが加わって、グローバルガバナンスそのものがサミットの使命となり、問題の切迫度合いに応じた提案を決議事項としていく。グローバル社会の安定化には、富める国と貧しい国の関係を改善し、共存を実現することが重要な要素の一つで、債務救済などはG8のリーダーシップで実現してきている。

一方9・11テロ以後は、民族紛争などと並んで国際的テ

ロ組織の撲滅や核不拡散が安全保障上の重要課題となった。近年は、世界の持続的成長を目標し、環境問題や地球温暖化、感染症など地球規模の不安定要素を取り除く努力も続けられ、G8決議のほとんどは国連など国際機関でも取り上げられている。

今回ロシアは、エネルギー問題をメインテーマにしようとしたが、北朝鮮のミサイル発射、インドのテロ事件、レバノンでの戦火などが主として、昨年同様、安全保障が主題となり、環境問題や持続的成長に関する中国やインドなどへの働きかけは精彩を欠く結果となった。

大であるかを世界にアピールし、アメリカとの共同歩調のもと、サミット直前に国連安全保障理事会で全会一致の非難決議採決にこぎ着けた。サミットでもミサイル発射や核、拉致、人権問題を含む非難決議への賛同を得た。あの決議は、ASEANなどの国際会議でも効果的な布石になる。また、サミットに先立つ小泉首相の中東歴訪は、北朝鮮問題に対する日本の姿勢をG8に理解されるのに役立った。

このほか、教育、感染症、貿易、アフリカ、露欧、知的財産権の保護、テロ対策、大量破壊兵器不拡散、武器禁輸などの文書が同意され、史上最多の31以上の指摘項目が採

【今後のサミットの課題】

75年の初サミットと同様、今年はエネルギー安全保障が主題となり、高値かつ不安定な石油価格、2030年までに倍増が予想される需要、エネルギーチェーン全体の膨

大な投資の必要性などが指摘された。しかし、資源の需要と供給、分配のメカニズムや市場経済について、地球社会の安定と持続的成長の観点から、さらに広く深い角度で検討し、今後もサミットで議論されていかなければならない。また今後の課題については、国際紛争を平和的に解決する手段として、G8諸国が国際司法裁判所の改革を呼び掛け、一方の当事者からの提訴だけで審理と予備的な判断ができるよう提案したい。

ユーマン・ニーズに心を奪われ、援助や社会的なインフラ整備に努めている。ただ資源がない日本は、資源獲得への布石としての援助がもう一つの柱として必要だ。今回決議された分野でも日本のODAを進めることが必要であり、その上で地球環境を守り、持続的な成長のために、先進国屈指の高いエネルギー効率を上げる日本の技術が、国の財政赤字が膨大な点は顧慮し、ケースに応じて適正な対価を得て国際協力を推進すべきである。

日本のODAは国際社会への主要な貢献手段であり、その柱としてMDGsにも一致するBHN(ベリック・ヒ

※日本が開発途上国の感染症やほかの健康への危険を顧みず、05〜06年の5年間で最大で50億ドルの供与を自国予算で計画



サンクトペテルブルク郊外にあるG8サミット会場、コンスタンチン宮殿の前で記念撮影する参加者。NGOの代表会議や宗教会議、子どもサミットも同時開催された ©AFP時事

Column

G8サミットは各関係会議の集大成

G8サミットは、首脳会議に先立つ外相、蔵相会議のみならず、首脳サミット終了後、翌年のテーマに従ってエネルギー相、環境相、教育相、厚生相などが会議を開き、何が協力できるかを相談する。むしろその集大成がG8サミットであることに注目すべきである。

構成国は経済的に先進国であると同時に、民主主義・市場経済国であることが重要な要件。そのことが地球社会の健全な発展の基礎的なフレームワークであるという、暗黙の認識のうちに選ばれている。

近年、G8開催国はアフリカ諸国やインド、中国など飛躍的成長を続ける国々や、国連など国際機関の代表を招待し、サミット決議のより効果的な実現への布石としてきた。その意味では、G8と他国、国際機関の連携によってグローバルガバナンスが少しずつ前進しているといえる。